



2014年度(平成27年3月期) 決算説明会

エーザイ株式会社

2015年5月14日

h/c
human health care

将来見通しに関する注意事項



- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。

2014年度 連結業績(IFRS)



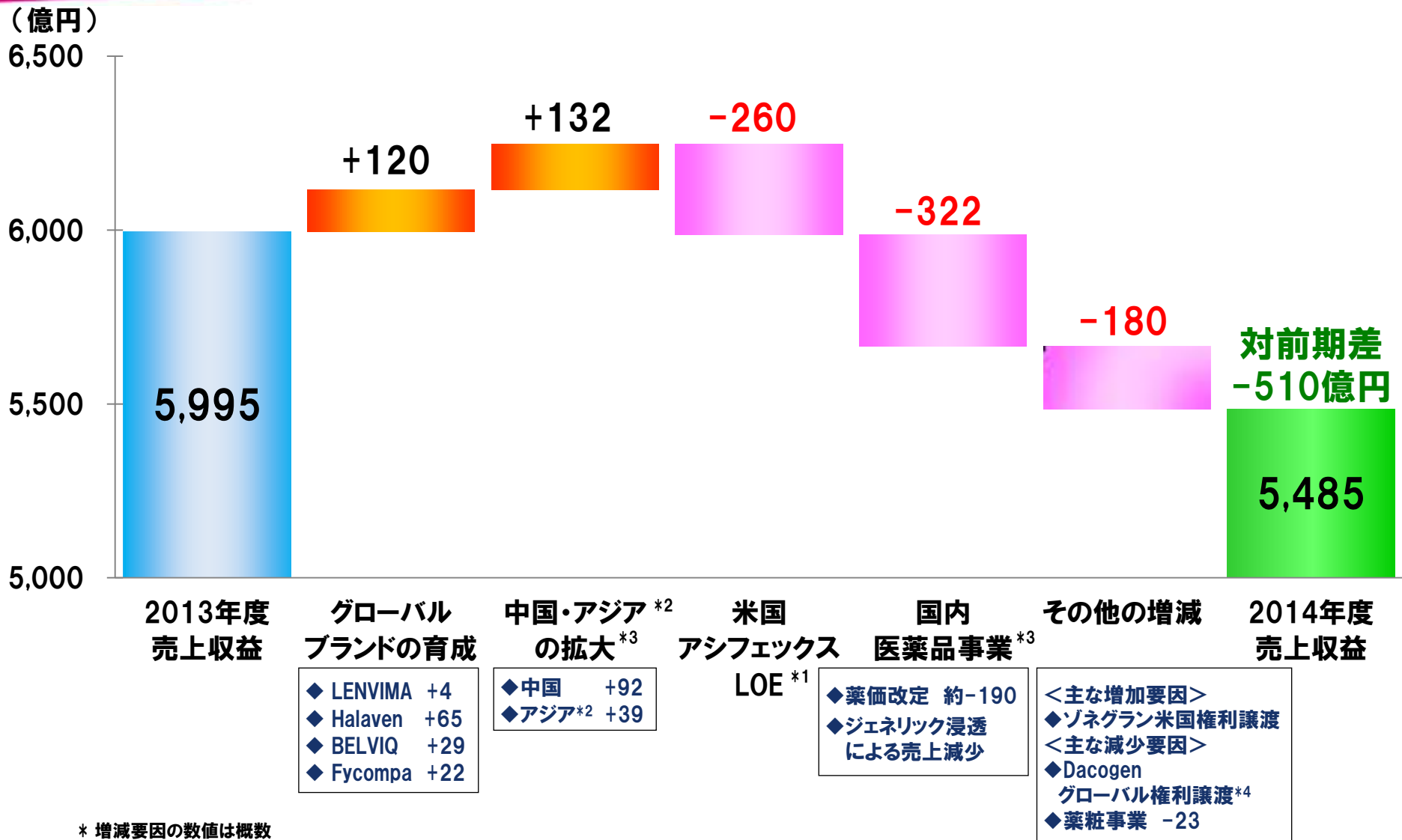
(億円、%)

	2013年度		2014年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上収益	5,995	100.0	5,485	100.0	91
売上原価	1,947	32.5	1,936	35.3	99
売上総利益	4,048	67.5	3,549	64.7	88
研究開発費	1,363	22.7	1,319	24.1	97
販売管理費	2,033	33.9	1,945	35.5	96
その他の損益	12	0.2	△1	△0.0	
営業利益	664	11.1	283	5.2	43
当期利益	385	6.4	435	7.9	113

2014年度期中平均レート 米ドル:109.92円(前期変動率+9.7%)、ユーロ:138.77円(同+3.3%)、ポンド:176.79円(同+10.9%)、人民元:17.73円(同+8.0%)

売上収益の増減要因分析

米国アシフェックスLOE^{*1}、国内事業の環境変化



* 増減要因の数値は概数

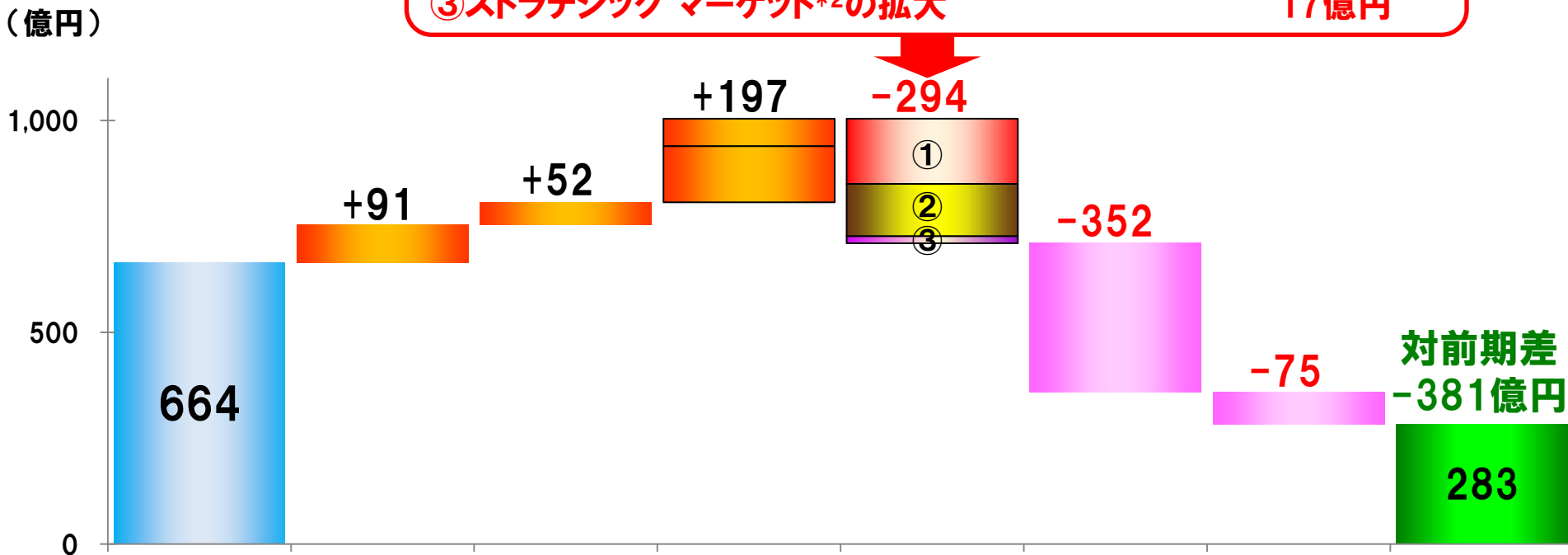
*1 Loss of exclusivity : 独占期間満了 *2 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 *3 グローバルブランドの実績は除く

*4 2014年3月 メキシコを除く全世界における開発・販売に関する権利を大塚製薬株式会社に譲渡

営業利益の増減要因分析

2015年度以降の急伸拡大を企図した資源投入

①グローバルブランドの育成 154億円
 ②プロダクト クリエーション優先8パイプライン*1の加速 123億円
 ③ストラテジック マーケット*2の拡大 17億円



- ◆ LENVIMA
- ◆ Halaven
- ◆ BELVIQ
- ◆ Fycompa

- ◆ 2014年度人件費*4の減少 +64
- ◆ 2013年度に発生した One Timeの構造改革費用 +133

- ◆ 薬価改定 約-160
- ◆ ジェネリック浸透による売上減少

- <主な増加要因>
- ◆ ゾネグラン米国権利譲渡
 - ◆ 研究開発費の効率化
- <主な減少要因>
- ◆ Dacogenグローバル権利譲渡*6
 - ◆ 薬粧事業 -20

* 増減要因の数値は概数
 *1 LENVIMA, Halaven, BELVIQ, Fycompa, E2006, BAN2401, E2609, Avatrombopag *2 カナダ, メキシコ, ブラジル, ロシア, オーストラリア
 *3 欧米における研究開発体制の改編, 美里工場の事業譲渡, 希望退職募集 *4 エーザイ(株)の人件費総額, ならびに欧米の研開発人件費(為替の影響を除く)
 *5 グローバルブランドの実績, ならびに人件費は除く *6 2014年3月 メキシコを除く全世界における開発・販売に関する権利を大塚製薬株式会社に譲渡

2014年度 戦略的資源投入の断行



グローバルブランドの育成

**Halavenは売上収益23%増、LENVIMAは好発進を達成
BELVIQとFycompaの売上目標は大幅未達であったが、バランスの取れた費用投入で
最大限の効果を得る新たなマーケティングミックスを見出した**

Halaven	・急伸拡大(売上収益353億円、前期比123%)
LENVIMA	・米国上市達成(2015年2月)
BELVIQ	・最適マーケティングミックスへ移行
Fycompa	・全般てんかん*上市準備

プロダクトクリエーションの加速

**自社創製抗がん剤LENVIMAのグローバル開発・承認取得と
複数の次世代アルツハイマー型認知症治療薬の開発推進をはじめとして
がんとニューロサイエンス領域でプロダクトクリエーションが進展した**

Halaven	・乳がん:欧州にて2ndライン承認取得 ・軟部肉腫:フェーズIII試験主要評価項目達成
LENVIMA	・免疫チェックポイント阻害剤KEYTRUDAとの併用療法の研究提携締結 ・甲状腺がん:日米欧で申請、日米で承認取得 ・肝細胞がん:フェーズIII試験が順調に進行中 ・腎細胞がん:フェーズII試験で極めて良好な結果を取得 ・非小細胞肺癌:3rdラインフェーズII試験の追加解析で全生存期間(OS)延長のベネフィットを示唆 ・免疫チェックポイント阻害剤KEYTRUDAとの併用療法の研究提携締結
BELVIQ	・phentermineの併用投与の臨床試験で12週間投与による安全性と忍容性を確認 ・禁煙補助に対するフェーズII試験で主要評価項目達成
Fycompa	・全般てんかん* フェーズIII試験主要評価項目達成、欧米で申請
E2609	・フェーズII試験開始
BAN2401	・フェーズII試験が順調に進行中
E2006	・フェーズII試験主要評価項目で良好な結果を取得
Avatrombopag	・フェーズIII試験進行中

グローバルブランドの申請、上市は着実に進展

地域特性に合致した最適ビジネスモデルを追究し、
バランスの取れた費用投入により早期採算化をめざす

カナダ

- Halaven 2012年3月 上市
- Fycompa 2013年5月 上市
- LENVIMA 2014年12月 申請
- Gliadel 2011年11月 上市

メキシコ

- Halaven 2015年4月 上市
- Fycompa 2014年11月 承認、上市準備中
- LENVIMA 2015年度 申請予定
- BELVIQ 2015年度 上市予定
- Gliadel 2015年4月 上市

ブラジル

- Halaven 2014年11月 上市
- Fycompa 2013年9月 申請
- LENVIMA 2015年1月 申請
- BELVIQ 2015年度 上市予定
- Gliadel 2011年10月 申請

ロシア

- Halaven 2013年9月 上市
- 2014年11月 転移性乳がん2nd ライン適応承認取得
- Fycompa 2014年6月 上市
- 2014年11月 全般てんかん*2適応申請
- LENVIMA 2014年12月 申請

オーストラリア

- Halaven 2014年10月 上市
- Fycompa 2014年11月 上市
- LENVIMA 2015年2月 申請

*1 カナダ、メキシコ、ブラジル、ロシア、オーストラリア

*2 強直間代発作

“The Daybreak of Growing Eisai” **成長回帰に向けて**

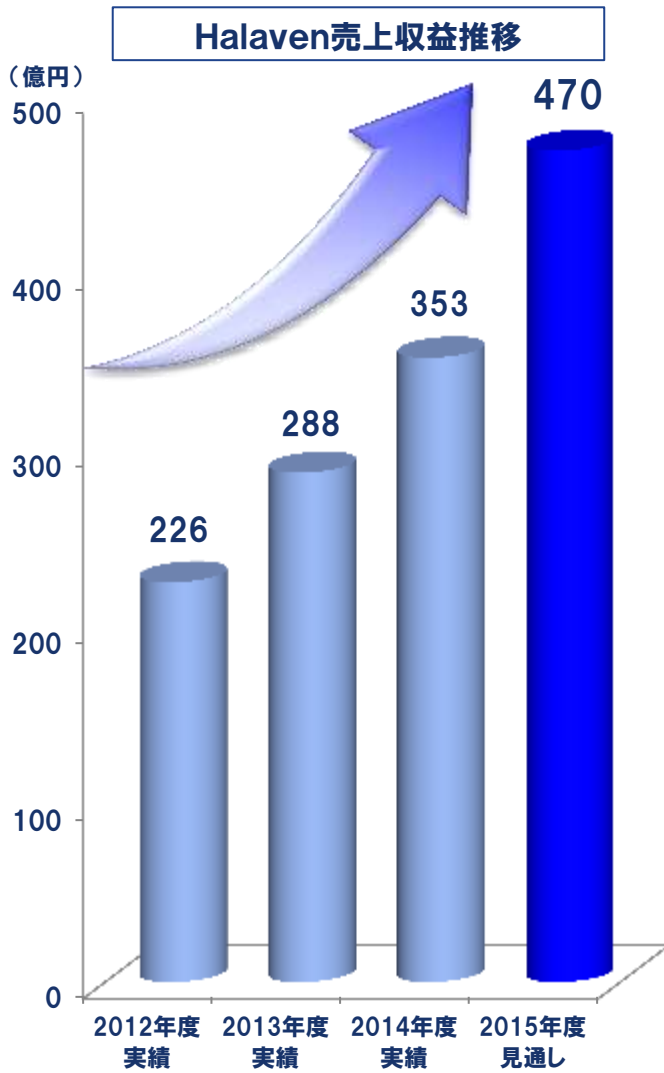
2015年度 戦略意思



1. グローバルブランド4品目の拡大
2. 日本医薬品事業の成長確保
3. 中国／アジアにおける高い成長性の維持
4. 成長と投資のバランスをはかる費用管理の徹底
5. ストラテジック マーケット*における早期採算化

* カナダ、メキシコ、ブラジル、ロシア、オーストラリア

2015年度 売上収益見通し 470億円 (前期比133%)をめざす



アメリカス
HER2ネガティブ/HR^{*1}ポジティブの患者様貢献に
注力し高成長を維持

EMEA^{*2}
FOPC^{*3}の承認取得により2ndライン治療の
ファーストチョイスとしてのポジショニング確立へ

日本
HER2ネガティブの早期ラインとともに
HER2ポジティブの3rdライン以降での患者様貢献拡大へ

アジア
インドネシアでの3rdライン治療承認取得と
2ndライン治療の適応拡大のシナジーにより飛躍的成長へ

価値最大化 適応拡大: 軟部肉腫
ASC02015^{*4}でオーラルプレゼンテーションを予定
2015年度上期中に日米欧で申請予定

*1 エストロゲン受容体(+)/プロゲステロン受容体(+)

*2 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

*3 Following One Prior Chemotherapy (転移性乳がん2ndライン治療)

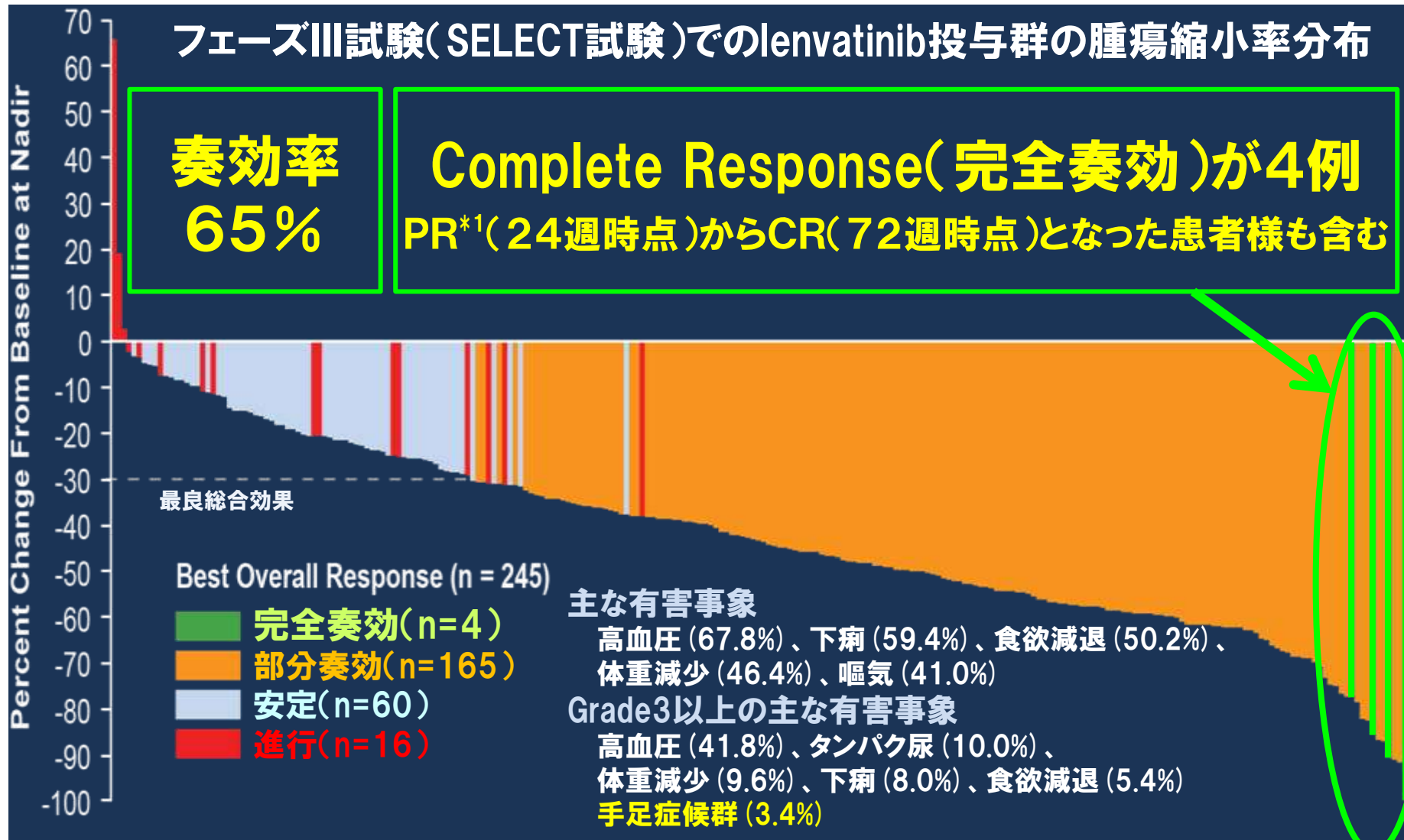
*4 2015 ASCO (American Society of Clinical Oncology) Annual Meeting

卓越した治療効果 “EARLY”、“FIRST”、“LONGER”

フェーズIII試験(SELECT試験)でのlenvatinib投与群の腫瘍縮小率分布

**奏効率
65%**

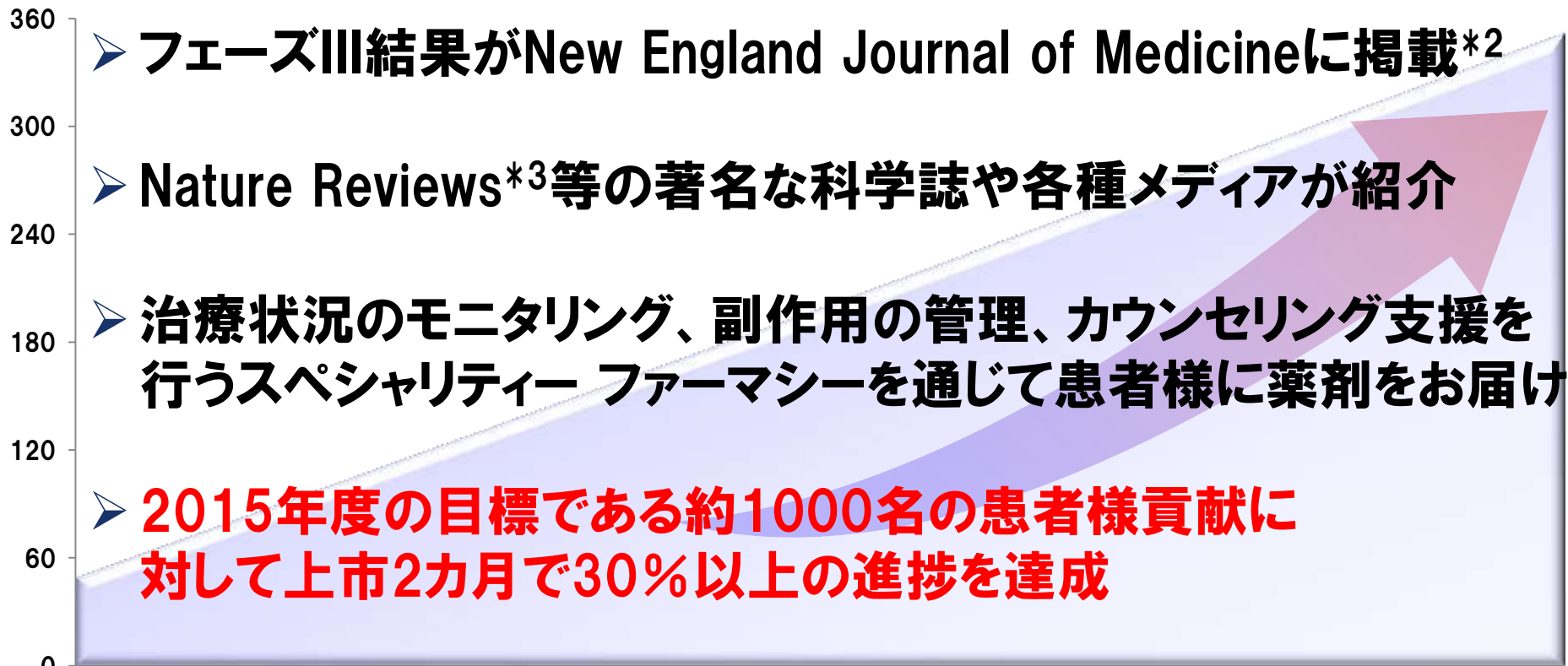
Complete Response(完全奏効)が4例
PR*¹(24週時点)からCR(72週時点)となった患者様も含む



2015年2月26日 米国で上市*1

米国でのLENVIMA服薬患者様数(累計)

(人)



2015年
2月末

上市後1週間で約60名の患者様が服薬を開始

4月末で累計350名以上の患者様が服薬

2015年
4月末

*1 適応症: 局所再発又は転移、進行性、放射性ヨウ素治療抵抗性分化型甲状腺がん *2 2015年2月12日号に掲載

*3 2015年3月31日 Advance Online Publicationに掲載、2015年4月9日 NEWS & ANALYSIS, Volume 14に掲載

2015年度の主要イベント

グローバル20カ国以上での上市をめざす

- **日本^{*1}** 2015年3月26日承認取得済、5月20日薬価収載予定
分化型甲状腺がんに加えて、甲状腺髄様がん、甲状腺未分化がんを含む
- **欧州^{*2}** 2015年3月CHMP^{*3}より新薬承認勧告受領
2015年5月承認取得予定
1Qより各国で陸続と上市予定
- **スイス、韓国、カナダ、ロシア、シンガポール、オーストラリア、
ブラジルで承認申請達成済み**

*1 適応症:根治切除不能な甲状腺癌

*2 適応症:成人での放射性ヨウ素治療抵抗性の進行性又は再発の分化型甲状腺がん(乳頭がん、濾胞がん、ヒュルトレ細胞がん)

*3 欧州医薬品庁(European Medicines Agency: EMA)の医薬品委員会(Committee for Medicinal Products for Human Use:CHMP)

LENVIMAの価値最大化に向けた取り組み

肝細胞がん 1stライン フェーズIII試験

患者様組み入れを2015年度上期に終了予定、2016年度に申請予定

腎細胞がん 2ndライン フェーズII試験

良好なトツプラインデータを取得
米国承認申請の可能性を追究

非小細胞肺がん 3rdライン フェーズII試験

追加解析でOS*延長のベネフィットを示唆、今後の戦略を策定中

子宮内膜がん 2ndライン フェーズII試験

臨床効果を予測するバイオマーカー候補を確認、今後の戦略を策定中

LENVIMAとHalavenの価値極大化へ 免疫チェックポイント阻害剤KEYTRUDA*1との併用療法の研究



革新的な新薬の併用により最善の治療の提供をめざす



VEGF/FGFR/RET
キナーゼ阻害剤

抗PD-1抗体

前臨床試験で示されたLENVIMAと 抗PD-1抗体との併用による相乗効果

- ◆ LENVIMA投与による腫瘍浸潤マクロファージ減少を介しての細胞傷害性T細胞活性化によるKEYTRUDAとのシナジー効果の可能性

いくつかの特定の固形腫瘍
に対するフェーズIb/II試験を
2015年度2Qに開始予定
(プロトコルは両社で既に決定)



微小管ダイナミクス
阻害剤

抗PD-1抗体

臨床試験で示された TNBC*2に対する効果

- ◆ 2つのフェーズIII試験で示されたHalavenによる全生存期間の顕著な延長*3とフェーズIb試験で示されたKEYTRUDAの効果*4によるシナジー効果の可能性

TNBC*2
に対するフェーズIb/II試験を
2015年度2Qに開始予定
(プロトコルは両社で既に決定)

*1 Merck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.Aとの研究提携

*2 Triple Negative Breast Cancer(トリプルネガティブ乳がん)

*3 EMBRACE試験と301試験の統合解析結果

*4 The 2014 San Antonio Breast Cancer Symposiumでの Dr. Rita Nanda, the University of Chicagoによる発表

ASCO 2015のハイライト



口頭発表

口頭発表演題	発表日時
転移性腎細胞がん患者を対象としたレンバチニブ単剤投与、エベロリムス単剤投与、レンバチニブ／エベロリムス併用投与の3群による無作為化臨床第II相試験	6月1日(月) 11:45 AM-11:57 AM
エリ布林とダカルバジンと比較する平滑筋肉腫および脂肪肉腫患者を対象とした多施設共同、無作為化、非盲検、臨床第III相試験 (Late-Breaking Abstract)	6月1日(月) 3:48 PM-4:00 PM

主なポスター発表

ポスター発表演題	
レンバチニブ	放射性ヨウ素治療抵抗性分化型甲状腺がん患者を対象としたレンバチニブの効果と安全性:VEGF標的治療歴の有無別による影響
レンバチニブ	放射性ヨウ素治療抵抗性分化型甲状腺がん患者を対象とした臨床第III相試験(SELECT試験)におけるアウトカムと抵抗性に関する薬力学バイオマーカー
レンバチニブ	放射性ヨウ素治療抵抗性分化型甲状腺がん患者を対象としたSELECT試験における年齢およびレンバチニブ投与の全生存期間への影響

適切なリソース配分による継続成長と価値最大化

レーザー フォーカス マーケティング ミックス

ターゲットを明確にした疾患啓発活動
対象となる年齢層や性別、ライフスタイルを
明確にしたDRTV^{*1}やデジタルマーケティング等を通
じて患者様や医師に対する疾患啓発を推進

コマーシャルカバレッジの充実
Tier2、Tier3^{*2}におけるコマーシャルカバレッジ
の拡大により患者様負担の軽減を実現

- 患者様負担軽減による再処方の拡大**
- 毎月の患者様自己負担を上限\$75に設定した支援プログラムを提供
 - 脱落率の軽減と服薬継続率の向上(3.5回以上の再処方をめざす)

- MR体制の最適化**
- 約320名のMRによるDecile分析に基づいたプロモーション活動(エーザイMR 約90名、シンジケートMR^{*3} 約230名)
 - 約35,000名の医師をターゲット

2015年度 主要イベント

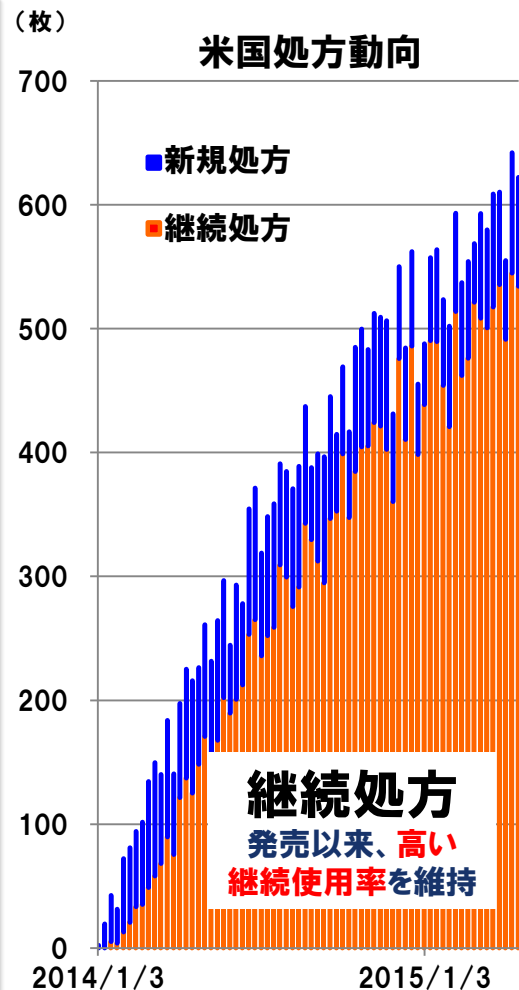
- 1日1回製剤申請
- メキシコ・ブラジルで上市予定、アジア諸国で申請の可能性を追究

*1 Direct Response Television

*2 Tier=米国における医療保険プランに設けられている薬剤償還プログラムの階層。
Tier1が最も患者様負担が少なく(おおむね後発医薬品が占める)、Tier2以降は階層ごとに患者様負担が増加する。

*3 シンジケートMRがBELVIQと他社製品をプロモーションすることで、費用効率を改善

全般てんかん*1 適応追加をGame Changerとする拡大



Fycompa ブランド認知度向上に向けた戦略

営業体制の最適化

Decile分析によりターゲットを
明確にしたプロモーション展開

KOLネットワーキング

- ・Decile分析に基づいたKOL処方動向の把握
- ・Peer to Peer education programを通じた経験知の浸透と使用促進

高い有効性の訴求

部分てんかんにおける有効性に加え、
全般てんかんにおける高い臨床効果訴求

データジェネレーション

リアルワールド(臨床現場で実際に
起きていること)からの臨床データの蓄積

米国PDUFA*2アクションデート:2015年6月19日
欧州では2015年度2Q承認予定

全般てんかん*1の併用療法に関する フェーズIII試験結果(332試験)で証明された高い臨床効果

- ・ Fycompa投与群で発作頻度が投与前と比べて76.5%減少
- ・ Fycompa投与群の30.9%が13週間にわたり無発作状態を維持
- ・ 米国で全般てんかん*1適応として8年ぶりの新薬となる予定

2015年度売上収益 100億円(前期比234%)の達成をめざす

米国事業 Innovative Adaptive Modelの追究



Neurology Business Unit

	エーザイMR 約90名	シンジケート MR 約230名*1
Fycompa [®] perampanel	○	
BANZEL [®] (rufinamide)	○	
BELVIQ [®] (lorcaserin HCl) <small>IV</small>	○	○
他社製品		○
MSL*2 約15名	○	

Market
Access
CFU*3

Oncology Business Unit

	MR 約120名*4
Halaven [®] (eribulin mesylate) Injection	○
LENVIMA [®] (lenvatinib) capsules	○
Aloxi [®] (palonosetron HCl) injection	○
Akynzeo [®] (necupitant/palonosetron)	○
MSL*2 約15名	○

**Decile分析によるターゲット絞込みと
MR数の最適化による生産性向上により
バランスのとれた成長をめざす**

*1 シンジケートMRがBELVIQと他社製品をプロモーションすることで、費用効率を改善

*2 Medical Science Liaison *3 Core Functional Unit *4 パートナーのMR約20名を含む

アルツハイマー型認知症における 先制医療に向けた治療薬開発のポイント



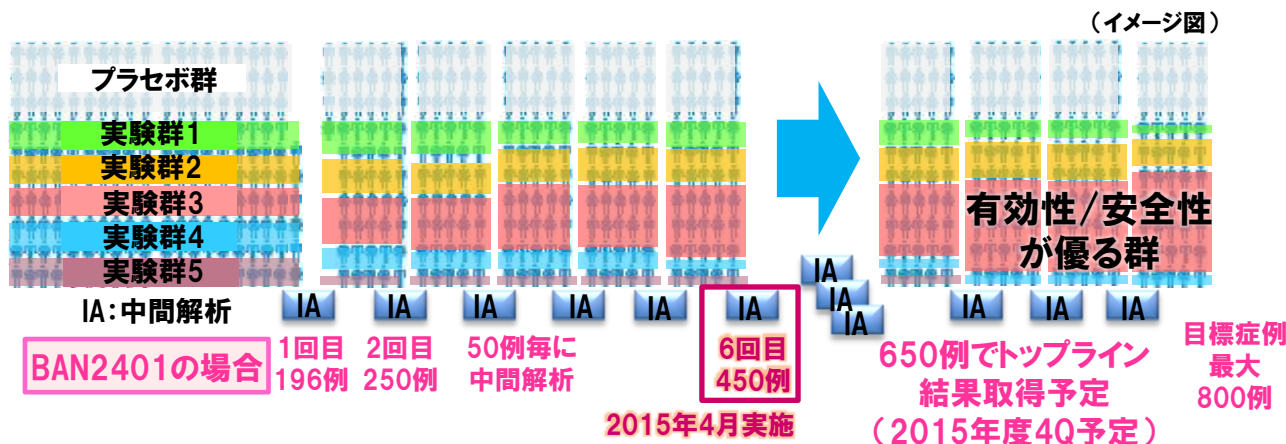
① Targetとする正確な 患者様組み入れの実現



③ 早く確実に有効性/安全性に 優れた至適用量を見出す工夫

ベイジアンアダプティブ デザイン

中間解析をしながら、有効性/安全性の高い群により多くの患者様を優先的に割り付け



アミロイドβ(Aβ)仮説に基づく3つのパイプライン 2015年度のイベント



E2609

自社創製のBACE*1阻害剤

フェーズII試験の安全性確認ステージ
(Stage A)のトップライン結果取得予定

BAN2401

抗Aβプロトフィブリル抗体

フェーズII試験のトップライン結果取得予定

Aducanumab (BIIB037)

Biogen社が開発中の抗Aβ抗体
(エーザイがオプション権を保有)

フェーズI b試験中間解析結果に関する最新データが
AD/PD学会*2および米国神経学会議*3で発表された

- 投与期間6カ月と1年の時点で、PETイメージングにより測定したアミロイドプラークが用量依存性と時間依存性をもって統計学的有意に減少
- 投与期間1年の時点で、MMSEとCDR-SBのスコア*4の悪化を用量依存性をもって統計学的有意に抑制
- 投与期間6カ月と1年の時点で、疾患の進行度やApoE4保有状態に関わらずアミロイドプラークは減少
- 安全性と忍容性に関わる主な所見: ARIA(アミロイド関連画像異常)

フェーズIII試験準備中*5

- 2015年中開始予定
- 早期のAD患者様1350名を対象とした18カ月間のフェーズIII試験を2本実施予定

*1 BACE: βセクレターゼ *2 2015年3月20日 The 12th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases and Related Neurological Disorders

*3 2015年4月22日 2015 Annual Meeting American Academy of Neurology *4 病状診断スコア

*5 2015年4月24日 Biogen First Quarter 2015 Financial Results and Business Update

新医薬品で攻める日本医薬品事業



グローバルブランド
の貢献拡大

レンビマ 5月20日薬価収載予定
Fycompa 2Q承認申請予定
(事前評価相談実施済)

新適応の
貢献拡大

アリセプト レビー小体型認知症
パリエット 低用量アスピリン潰瘍再発抑制

ハラヴェン、ルネスタ、ヒュミラ、リリカの飛躍的拡大

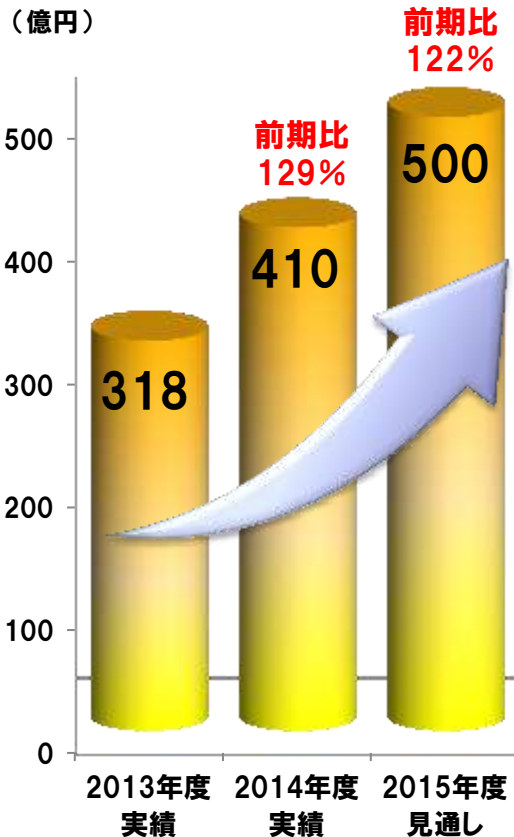
オンコロジー領域におけるデュエット体制の本格始動
地域包括hhcユニットMR 約630名*、オンコロジーhhcユニットMR 約130名の共闘

2015年度は増収へ
売上収益見通し 2820億円、前期比101%

オートノミー モデルによる中国の続伸

売上収益2桁成長に向けて、新リージョン体制が稼働
2015年度売上収益見通し 500億円(前期比122%)

中国 売上収益推移



中国オートノミー モデルが本格稼働

- ・現地マネジメントによる中期計画の策定と共有化
- ・M&A、生産能力強化等の戦略投資に対する迅速な意思決定



熱気あふれる全国営業総会
 (2015年3月、中国青島市)

イノベーションの加速

アリセプト 高度AD*適応追加 2015年3月申請達成
 Halaven 乳がん3rdライン 2015年度申請予定

成長ドライバー Low Tier Marketへアクセス拡大

中規模都市、未進出エリアへ現製品を効率的に普及

- ・成長可能性の高い中規模都市へ自社MRを効率的に配備
- ・未進出エリアを得意とするパートナーと戦略的アライアンス

M&A等によるジェネリック市場への参入

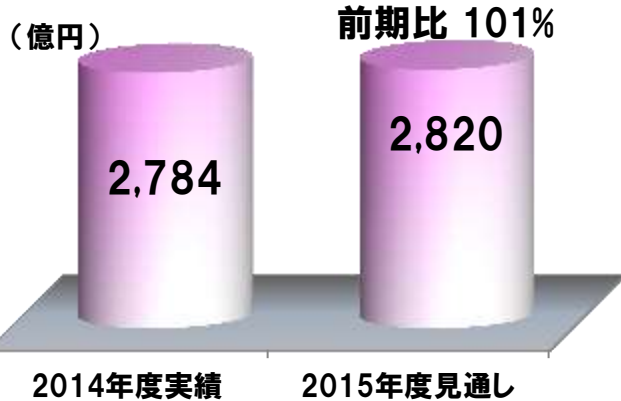
- ・現製品とのシナジーを追究したジェネリックの品揃え
- ・生産工程の自動化等による原価低減の推進

2015年度 医薬品事業 地域別売上収益見通し

アメリカス^{*1}以外で増収、中国・アジア^{*2}・EMEA^{*3}は2桁成長を継続

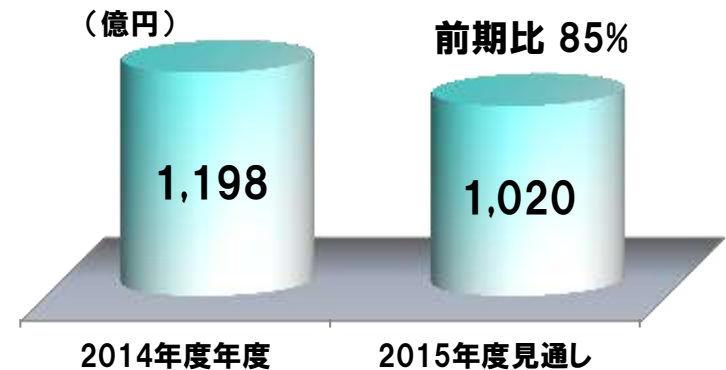
日本^{*4}

- ◆新医薬品で攻める
- ◆オンコロジー領域におけるデュエット体制



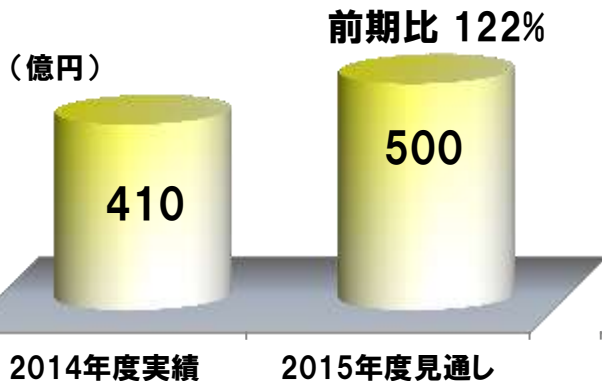
アメリカス

- ◆堅調なオンコロジーを基盤としグローバルブランドを育成
- ◆LOEを乗り越え新たな成長ステージへの過渡期



中国

- ◆オートノミー モデルによる意思決定
- ◆Low Tier Marketへの進出



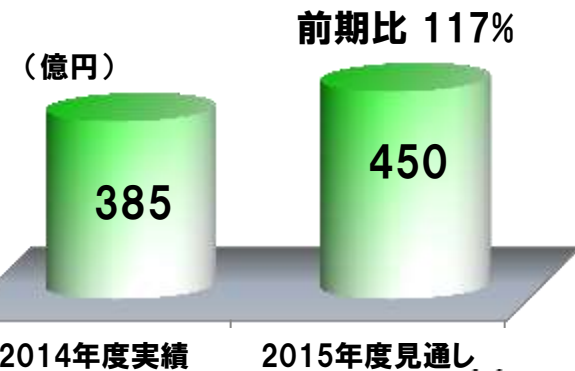
アジア

- ◆韓国、台湾、タイの2桁成長継続と次世代コアマーケット^{*5}の躍進
- ◆PAP^{*6}活用による低中所得者層へのアクセス拡大



EMEA

- ◆オンコロジーとニューロロジー両領域の同時拡大による高成長維持



*1 北米、中南米 *2 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 *3 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア *4 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、診断薬
*5 ベトナム、ミャンマー、インド、インドネシア *6 患者様支援プログラム

成長と費用投入のバランス化による企業価値の最大化

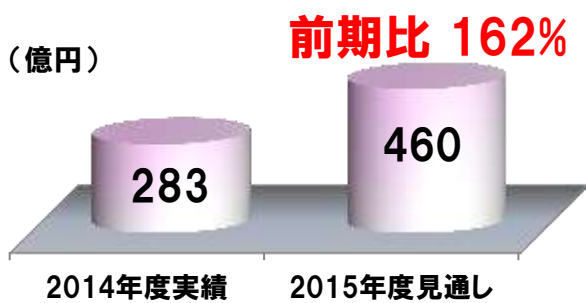
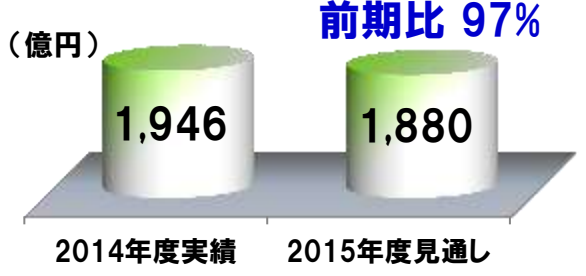
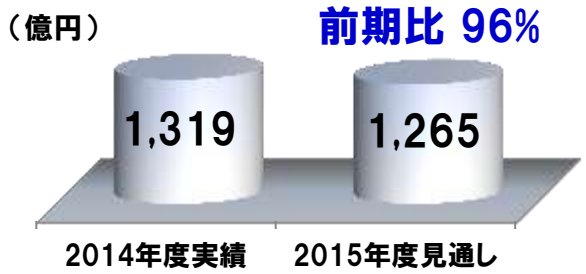
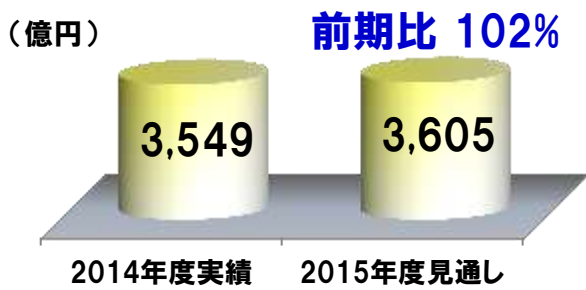


売上総利益

研究開発費

販売管理費等

営業利益



研究開発費

- ・ 認知症関連領域およびオンコロジー領域への集中

販売管理費等

- ・ 米国医薬品事業の効率化を企図した構造改革の実現
- ・ レーザーフォーカスマーケティングミックス等によるグローバルブランドへの効率的な費用投入
- ・ ストラテジックマーケットへの費用投入の見直し
- ・ 業務の中止、統合などの取捨選択を通じた抜本的な費用構造改革

営業利益は成長回帰へ

Strong Balance Sheetによる積極投資と安定配当の両立



積極投資

グローバルブランドの育成
 プロダクトクリエーションの加速
 M&A及びパートナーシップ

安定配当 150円維持

DOE*1 8%レベル

Balance Sheet Management

	2012年度末	→	2013年度末	→	2014年度末
Net DER*2	0.26倍	→	0.14倍	→	0.06倍
自己資本比率*3	48.0%	→	54.0%	→	56.8%
Net Debt/EBITDA*4	1.00年	→	0.67年	→	0.49年

中長期的にフリーキャッシュフローの範囲内で安定配当可能

2012年度～2014年度(3年間累計)
 フリーキャッシュフロー 1946億円 > 配当 1284億円
 (2014年度実績 604億円)

* 配当支払いは毎年の取締役会決議を前提とする
 *1 Dividend on Equity *2 Net DER: Net Debt Equity Ratio=(有利子負債(社債及び借入金)-現金及び現金同等物-3カ月超預金等)÷親会社の所有者に帰属する持分 *3 IFRSベースの親会社所有者帰属持分比率と同義
 *4 Net Debt/EBITDA: Net Debt/Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization=(有利子負債(社債及び借入金)-現金及び現金同等物-3カ月超預金等)÷(税引前当期利益+支払利息+減価償却費)
 (過年度分も含めIFRSベース)

2015年度 連結業績見通し(IFRS)

本業で成長回帰へ



(億円、%)

	2014年度		2015年度		
	実績	売上比	見通し	売上比	前期比
売上収益	5,485	100.0	5,565	100.0	101
売上原価	1,936	35.3	1,960	35.2	101
売上総利益	3,549	64.7	3,605	64.8	102
研究開発費	1,319	24.1	1,265	22.7	96
販売管理費等*	1,946	35.5	1,880	33.8	97
営業利益	283	5.2	460	8.3	162
当期利益	435	7.9	270	4.9	62
EPS(円)	151.6		93.8		62
ROE(%)	7.7		4.5		
DOE(%)	7.6		7.2		
配当金(円)	150		150		

* 販売管理費等:販売管理費+その他の損益

2014年度期中平均レート 米ドル:109.92円、ユーロ:138.77円、ポンド:176.79円、人民元:17.73円

2015年度期中平均予想レート 米ドル:120円、ユーロ:137円、ポンド:183円、人民元:19.20円

参考資料

セグメント売上収益



(億円、%)

	2013年度		2014年度		
	売上収益	構成比	売上収益	構成比	前期比
日本*1	3,110	51.9	2,784	50.8	90
アメリカス*2	1,589	26.5	1,198	21.8	75
中国	318	5.3	410	7.5	129
アジア*3	262	4.4	309	5.6	118
EMEA*4	320	5.3	385	7.0	120
薬粧事業(日本)*5	193	3.2	170	3.1	88
報告セグメント計	5,793	96.6	5,257	95.8	91
その他事業	202	3.4	228	4.2	113
連結売上収益	5,995	100.0	5,485	100.0	91

日本、アメリカス、中国、アジア、EMEAは医薬品事業

*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、診断薬 *2 北米、中南米 *3 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 *4 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

*5 一般用医薬品

セグメント利益



(億円、%)

	2013年度			2014年度			
	セグメント利益	構成比	利益率	セグメント利益	構成比	利益率	前期比
日本*1	1,544	69.9	49.6	1,215	71.1	43.7	79
アメリカス*2	391	17.7	24.6	149	8.7	12.4	38
中国	73	3.3	22.8	106	6.2	25.8	145
アジア*3	55	2.5	21.2	74	4.3	24.0	134
EMEA*4	41	1.9	13.0	66	3.9	17.1	159
薬粧事業(日本)*5	43	1.9	22.0	22	1.3	13.1	52
報告セグメント計	2,147	97.2	37.1	1,632	95.5	31.0	76
その他事業	63	2.8	31.1	78	4.5	34.1	124
研究開発費および 親会社の本社管理費等	△1,546			△1,427			92
連結営業利益	664		11.1	283		5.2	43

日本、アメリカス、中国、アジア、EMEAは医薬品事業

*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、診断薬

*2 北米、中南米

*3 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

*4 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

*5 一般用医薬品

日本医薬品事業の業績



(億円、%)

	2013年度		2014年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上収益	3,110	100.0	2,784	100.0	90
医療用医薬品計	2,816	90.6	2,455	88.2	87
アリセプト	650	20.9	469	16.9	72
パリエット*1	473	15.2	371	13.3	78
ヒュミラ	288	9.3	299	10.7	104
メチコパール	252	8.1	224	8.0	89
リリカ*2	194	6.2	215	7.7	111
ワーファリン	97	3.1	86	3.1	89
アクトネル	77	2.5	67	2.4	87
ハラヴェン	64	2.1	61	2.2	94
セルベックス	67	2.2	47	1.7	71
ルネスタ	29	0.9	45	1.6	155
ジェネリック医薬品	234	7.5	269	9.7	115
診断薬	60	1.9	60	2.1	100
セグメント利益	1,544	49.6	1,215	43.7	79

*1 ヘリコバクター・ピロリ除菌用3剤組み合わせパック製剤「ラベキア400/800」および「ラベファインパック」の売上収益を含む

*2 アライアンス収入

アメリカス医薬品事業の業績



(億円、%)

	2013年度		2014年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上収益	1,589	100.0	1,198	100.0	75 [69]
Aloxi	429	27.0	498	41.6	116 [106]
ハラヴェン	134	8.4	165	13.8	123 [113]
アシフェックス	377	23.7	117	9.8	31 [28]
Banzel	76	4.8	104	8.7	136 [125]
BELVIQ	25	1.6	54	4.5	215 [196]
Fycompa	8	0.5	19	1.6	241 [221]
レンビマ			4	0.3	
セグメント利益	391	24.6	149	12.4	38 [35]

[]内は現地通貨ベース

中国、アジア医薬品事業の業績



<中国>

(億円、%)

	2013年度		2014年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上収益	318	100.0	410	100.0	129 [119]
メチコバル	138	43.5	173	42.2	125 [116]
強力ネオミノファーゲンシー/グリチロン	54	17.1	69	16.8	127 [118]
アリセプト	38	12.1	47	11.5	123 [114]
パリエット	22	7.0	29	7.0	129 [119]
セグメント利益	73	22.8	106	25.8	145 [127]

[]内は現地通貨ベース

<アジア*>

(億円、%)

	2013年度		2014年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上収益	262	100.0	309	100.0	118 [108]
アリセプト	81	30.9	94	30.3	115 [105]
ヒュミラ	68	25.9	81	26.1	118 [108]
パリエット	35	13.3	37	11.9	106 [99]
メチコバル	23	8.6	26	8.5	116 [109]
ハラヴェン	5	1.9	12	3.9	239 [220]
セグメント利益	55	21.2	74	24.0	134 [119]

* 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

[]内は現地通貨ベース

hbc
human health care

EMEA医薬品事業、薬粧(一般用医薬品等)の業績



<EMEA*>

(億円、%)

	2013年度		2014年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上収益	320	100.0	385	100.0	120 [116]
ハラヴェン	85	26.6	116	30.0	136 [130]
ゾネグラン	66	20.7	81	21.1	123 [118]
Zebinix	24	7.5	32	8.4	134 [130]
Fycompa	13	4.0	24	6.2	185 [176]
イノベロン	19	6.0	21	5.5	111 [107]
セグメント利益	41	13.0	66	17.1	159 [158]

* 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

[]内は現地通貨ベース

<薬粧-日本>

(億円、%)

	2013年度		2014年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上収益	193	100.0	170	100.0	88
チョコラBBグループ	122	63.3	103	60.8	85
セグメント利益	43	22.0	22	13.1	52